

「新年賀詞交換会」と「第3回ウェアラブルEXPO2017」

神谷 直亮

今月は、まず、新年に開催された賀詞交歓会に触れ、次いで1月中旬に行われた「第3回ウェアラブルEXPO2017」についてレポートしたいと思う。

「新年賀詞交歓会」

1月に2件の新年賀詞交換会に出席した。1件は、ケーブルテレビ3団体（日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会、日本ケーブルラボ）が合同で主催した賀詞交歓会だ。1月12日に東京・溜池山王のANAインターコンチネンタルホテル東京で開催されたこの交歓会には、全国のケーブルテレビ事業者、番組供給事業者、関連団体などから885人が参加した。冒頭の挨拶に登壇した吉崎正弘ケーブルテレビ連盟理事長は、「2016年のCATV業界の売上高は、約1兆2000億円を記録した。視聴世帯は約3000万で、全国世帯の過半数を占める。2017年の課題は、2018年に始まる4K8K衛星放送への対応である。伝送路の光化やセットトップボックスの入れ替えを着実に進め、CATVの未来を拓こう」と呼びかけた。これに対し来賓として出席した高市早苗総務大臣は、「来年度予算案に光ケーブル設置の補助金を盛り込んでいる。これからしっかりと審議に臨む所存である」と力強い支援を表明した。

もう1件は、衛星放送協会の新年賀詞交



写真1 初出展のセイコーエプソンは、ポリシリコンTFTアクティブマトリックス方式のヘッドセットモデル「BT-2000」と同ヘルメットモデル「BT-2200」を展示して注目を集めた。

歓会で、1月17日に明治記念館（東京・港区元赤坂）で開催された。冒頭の挨拶に登壇した和崎信哉会長は、「2016年には、BSによる4K8K試験放送が始まり、その後ソフト事業者の申請が受け付けられた。一方、インターネット配信事業者によるスポーツコンテンツのライブ配信が始まり、厳しい競争状態となった。2017年は、有料多チャンネル事業者にとって生き残りを賭ける模索の年になる。他のプラットフォームサービスとの差別化を図れるオリジナルコンテンツへのこだわりを持ち続けてまい進する年にしたい」と力強く語った。

「第3回ウェアラブルEXPO2017」

ウェアラブル端末・活用・技術の総合展「ウェアラブルEXPO2017」は、1月18日から20日まで東京ビッグサイトで開催された。主催者のリードエグジビションジャパンによれば、今回の出展者は、初出展70社を加え、200社・団体に達したという。第3回を迎えた今年の会場には、セイコーエプソン、メガネスーパー、ウエストユニティス、ビュージックス（Vuzix）、ウェアラブルコンピュータ研究開発機構（チームつかもと）、アイフリークモバイルなどが出



写真2 メガネスーパーは、「視覚の拡張」をキーコンセプトにして開発を進めているメガネ型ウェアラブル端末「b.g. (ビージー)」のプロトタイプ実機を紹介した。

展し、多くの来場者で賑わった。

スマートグラスの日本での火付け役と言われるセイコーエプソンは、今回初出展を飾った。「見たい情報が視界にあると、仕事は変わる」を旗印に掲げた同社は、「MOVERIO BT-300」「同 BT-350」「MOVERIO PRO BT-2000」「同 BT-2200」の4種の製品をブースに持ち込んで来場者に体験を促していた。「BT-300」は、メガネのようにかけるだけで大画面・高画質映像を楽しめるシースルー両眼スマートグラスである。独自のシリコン有機ELディスプレイを採用し、パネルの構造で光の方向を制御できる。

また、レンズや導光板のサイズダウンで軽量化（ヘッドセット部、69グラム）にも成功している。仮想画面サイズを聞いてみたら「仮想視聴距離20メートルで320型相当」との回答であった。映像ソースについては、microSD（最大2GB）/SDHCカード（最大32GB）、インターネット動画配信サービス、ポータブルDVDドライブなどに対応しているという。「BT-350」は、「BT300」を業務用に最適化したものとのことであった。「BT-2000」は、ポリシリコンTFTアクティブマトリックス方式、仮想画面サイズ64型相当の業務用ヘッドセットモデルで、「BT-2200」は、同ヘルメットモデルである。「BT-2200」は、展示会の時点ではまだ発売されておらず、「2月まで待ってほしい」と依頼していた。特色を聞いてみたら「両眼による高度視認性、安定した装着感、防塵・防滴タフネス仕様」の3点を挙げていた。

メガネスーパーは、「視覚の拡張」をキーコンセプトにして開発を進めているメガネ型ウェアラブル端末「b.g. (ビージー)」のプロトタイプ実機を紹介し、ソリューションに関する5種のデモを実施して注目を集めた。まず、「b.g.」について確認を求めたら「Beyond Glasses」とのことで、キー

コンセプトの「メガネを超えるメガネ」による「視覚拡張」を意味しているという。次いで、設計上の特長を聞いてみたら「ノンシーラー型高解像度両眼視設計、左右ディスプレイ位置の可変性、前後左右のバランス、メガネフレームと着脱可能な外フレーム構造、要視力矯正者も使用可能」の5点を挙げていた。

ソリューションコーナーのデモで興味深かったのは、望遠カメラやオペラグラスと連携して超望遠の映像を身近に見ることができた。つまり、スポーツ観戦やライブイベントでの活用を期待している。さらにロボットと連動した遠隔コミュニケーションや聴覚障害者向けの字幕表示サービスのデモも行われていた。ブースの説明員は、「視覚拡張には、見えるものを拡張する、見えないものを拡張するという2つの意味が込められている」と語っていた。肝心な量産体制に入る目標については、「後しばらくパートナーを募って実証実験を続け、受注予約を積み上げたい。量産は、2017年の秋ごろを目標にしている」と答えていた。

大阪に本社を置くウェストユニティスは、菱電商事と共同でブースを構えて、一昨年から販売を始めたヘッドマウントディスプレイ「InfoLinker」と今年発売を予定している新製品「PicoLinker」を紹介した。ブースの担当者によれば、「InfoLinkerは、身に着けることができるコンピュータとして独立しており、スマホとの連携が不要である。瞳分割方式という光学技術を駆使しており、表示部分が非常に小さいのが特色」という。一方の「PicoLinker」は、「シンプルな単眼ヘッドマウントディスプレイで、HDMI入力によりスマホ、ウェアラブルカメラ、PCなどに接続して使用することができる。マウントは、ネックバンドが既存のメガネに直接取り付ける方式をとっている」とのことであった。「InfoLinker」の販売価格と実用例を聞いてみたら「価格は15万5千円で、医療手術、8耐レースでのレーザーとピットとの情報共有などで実用化されている」と答えていた。また、「PicoLinker」については、「4月に10万円弱の価格で発売する予定」と語っていた。



写真3 ウェストユニティスは、今年発売を予定している新製品「PicoLinker」の売込みを熱心に行っていた。

Vuzix（本社、米ニューヨーク州）は、3種のスマートグラス「M100」「M300」「M3000」を披露した。同社の旗艦製品と位置付けられてきた「M100」は、OSがAndroid 4なのに対し新製品の「M300」は、Android 6にアップグレードされ、視野角も対角14度から20度に広がった。ボイスコントロール、2軸タッチパッドジェスチャーコントロール、3自由度ヘッドトラッキングなど、同社が誇る盛りだくさんな機能を搭載している点に変わりはない。現在開発中で、今年夏ごろに発売を考えているという「M3000」については、「シーラー方式に変わり、輝度が2000から3000nitsに上がる」と語っていた。さらにVuzixは、「iWear」ビデオヘッドフォンのPRにも余念がなかった。このビデオヘッドフォンは、VRに対応しており2015年秋から6万円で販売されている。仕様については、「表示解像度1280 x 720ピクセル、視野角55度、アスペクト比16:9、約3メートル先に125インチ相当のスクリーンを再現でき」と説明していた。

ウェアラブルコンピュータ研究開発機構（チームつかもと）のブースには、同機構のメンバーになっている美貴本とテレパシージャパンが詰めていた。美貴本



写真4 Vuzixは、現在開発中で今年夏ごろに発売を考えているというシーラー方式の「M3000」のPRに余念がなかった。

は、昨年と同様に視線検知機能をもつインテリジェントディスプレイ付のスマートアイウェア「RECONJET」を紹介した。一方、テレパシージャパンは、「テレパシー・ウォーカー」と名付けた片目式ウェアラブルメガネを売り込んでいた。世界初の折りたたみ式ディスプレイを採用しており、胸のポケットにしまえるのが特色である。

アイフリークモバイルは、提携先の中国Mili Picturesが経営しているというVR館を紹介した。サムスン電子の「Galaxy Gear VR」が用意されており、このヘッドマウントディスプレイを装着して、上海、北京、蘇州の3カ所にあるVR館の内部と上映コンテンツを見ることができた。ブースの説明員は、「最近、アメリカのサンタモニカにもオープンした。海南島にも今年VRパークをオープンする予定」と語っていた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

GCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り
120cmφ型

衛星通信用超小型可搬アンテナ
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal

5分で運用開始

IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
http://www.bizeat.jp TEL : 03-5772-9125